



06

波形を見ながら 直感的に収集設定をしたい

調整モード

波形の下に収集条件設定窓が表示されます。変更するとリアルタイムに反映され、直感的に素早く収集条件決めが行なえます。

HOW TO/STEP

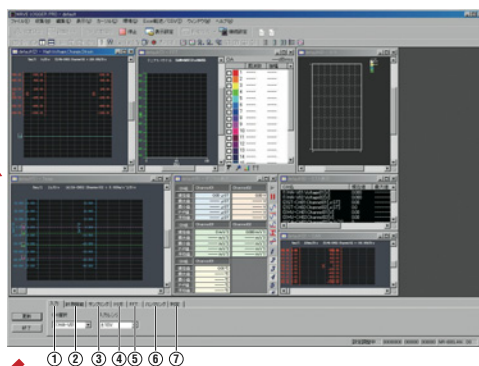
- 【収集 (M)】—【調整モード (J)】ボタンをクリック。
(又は、ダイレクトツールバーの調整モードボタン)
- 波形を見ながら入力レンジなど必要項目を選択、設定。
- 反映された結果が良ければ、[終了] ボタンを押します。

LOGGER PRO - Untitled1	
収集 (M)	編集 (E) 表示 (V)
本体接続確認 (U)...	F2
オートバランス (B)...	
収集設定 (C)...	F4
自動保存設定 (A)...	F5
収集開始 (R)	F8
調整モード (J)	

① 調整モードを起動します。

<タブの種類>

- ① 入力 ch 選択、入力レンジ設定
- ② 計測機能 フィルタ設定
- ③ サンプリング 周期、データ長設定
- ④ トリガ トリガ設定
- ⑤ FFT 周波数帯域、周波数分解能
- ⑥ ハンマリング 周波数帯域、
収集時間、トリガ条件
- ⑦ 判定 判定設定



③ 最後に終了ボタンを押します。

リアルタイム
調整が
できます!



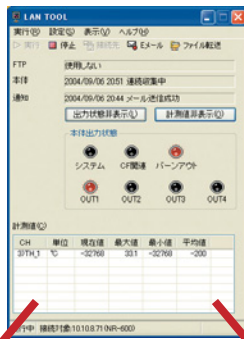
入力信号の大きさやトリガレベルが明確ではない時に威力を発揮します。表示条件 (縦・横比率など) はツールバーの拡大・縮小ボタンでいつでも変更可能です。

07 データ収集の状態を携帯電話にメールで知らせたい

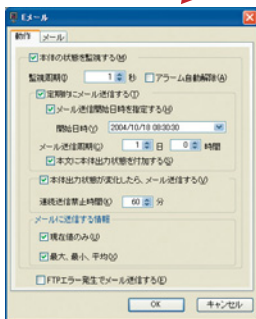
定時&アラームメール機能 データ収集の状態を任意の時間毎にメール発信します。どこにいても稼動状態が確認でき安心です。

HOW TO/STEP

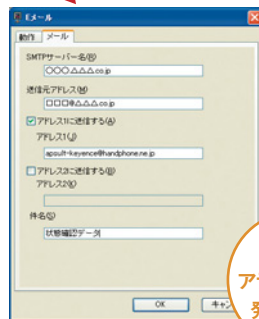
- 1 NR-600とPCを接続します。
- 2 ネットワークソフト「LAN TOOL」を起動します。
- 3 メール設定を行ない、実行します。(PCがメールできる環境も必要です)



「LAN TOOL」の画面で現在値や出力状態確認もできます。



動作設定します。



通信設定します。

定期&アラームメール発報可能!



“本体出力状態が変化したら、メール送信する”にチェックを入れると通常の定期メールとは別に、計測値が判定NG時や断線警報、動作状態異常時などの場合に、即座にメール発報します。

08

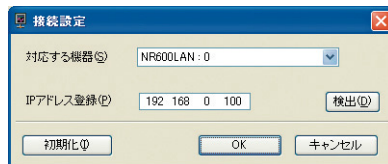
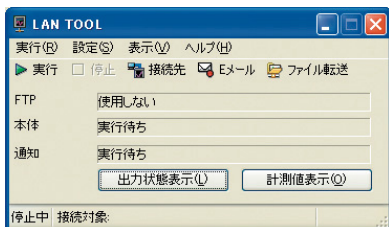
本体内データファイルを 一定期間でサーバへ転送したい

FTP機能

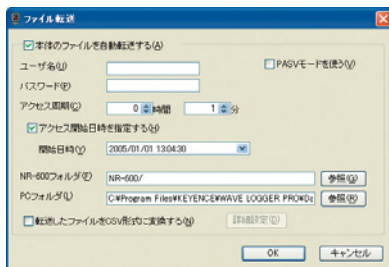
ネットワークソフト「LAN TOOL」がNR-600に装着したCFメモリ内データを指定した場所にFTP転送します。長期収集中のCFメモリ容量オーバーの回避に便利です。

HOW TO/STEP

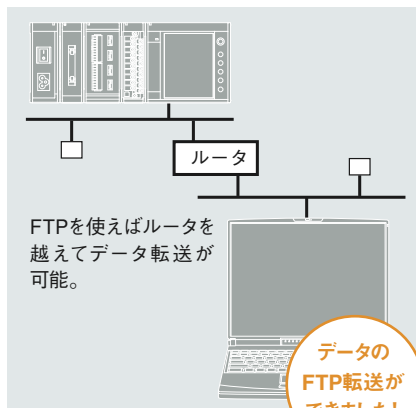
- 1 NR-600とPCを接続します。
- 2 ネットワークソフト「LAN TOOL」を起動します。
- 3 接続設定とファイル転送先設定などを行ない、実行します。



通信するNR-600のIPアドレスを指定します。



通信パスワードやデータ転送先のディレクトリなどを設定します。



複数台NR-600を使用してデータ収集しているときに、データの集中管理にも役立つ機能です。

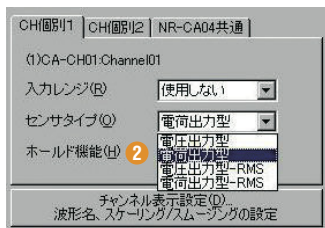
09 加速度センサを接続したい

直感設定

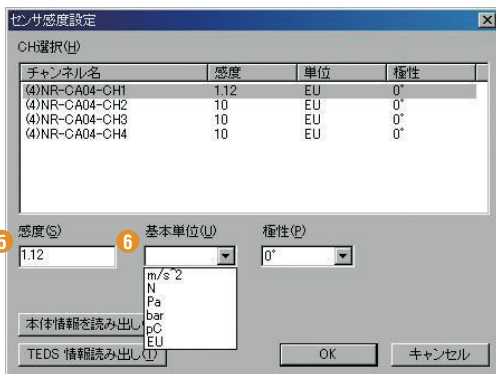
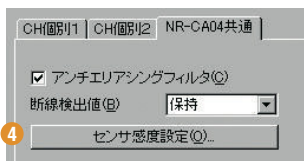
加速度ピックアップの設定も“センサのタイプ”“加速度レンジ”“感度”の3点を設定するだけで可能です。

HOW TO/STEP

- 1 【収集設定】 ボタンを押します。
- 2 【センサタイプ】 で「電荷出力型」か「電圧出力型」かを選択します。
- 3 【入力レンジ】 を設定します。
- 4 【センサ感度設定】 ボタンを押します。
- 5 加速度センサの電荷（電圧）感度を「感度」に入力します。
- 6 【基本単位】 を設定します。



計測をおこなう最大測定加速度を“入力レンジ”に設定します



TEDS対応の加速度センサであればTEDS情報を読み出すことも可能です。



10

システム毎やチャンネル別に 表示ウィンドウを分けたい

マルチ ウィンドウ機能

温度や圧力など別々の物理量を同時計測しているとき、または複数チャンネル使用時、グループ毎に分けて表示をすると見やすく便利です。

HOW TO/STEP

- 1 【ウィンドウ】 - 【波形表示ウィンドウ】 を選択し、新しくウィンドウを開きます。
※数値やXY画面も選択できます。
- 2 波形表示ウィンドウは【凡例表示】 ボタンを選択し、表示波形にチェックを入れます。
※他の表示ウィンドウの時は調整するウィンドウ上で右クリックし表示設定を選びます。

凡例表示ボタン

1

2

チェックを入れたチャンネルを表示します。

波形の表示・非表示が簡単!

一つのウィンドウに全て表示させたり、ウィンドウを増やして系統別に表示させるのも自由自在。



ワンポイント

ウィンドウ数に制限はありません。好きなグループ毎にウィンドウを作成できます。また、過去ファイルも自由に開くことができます。



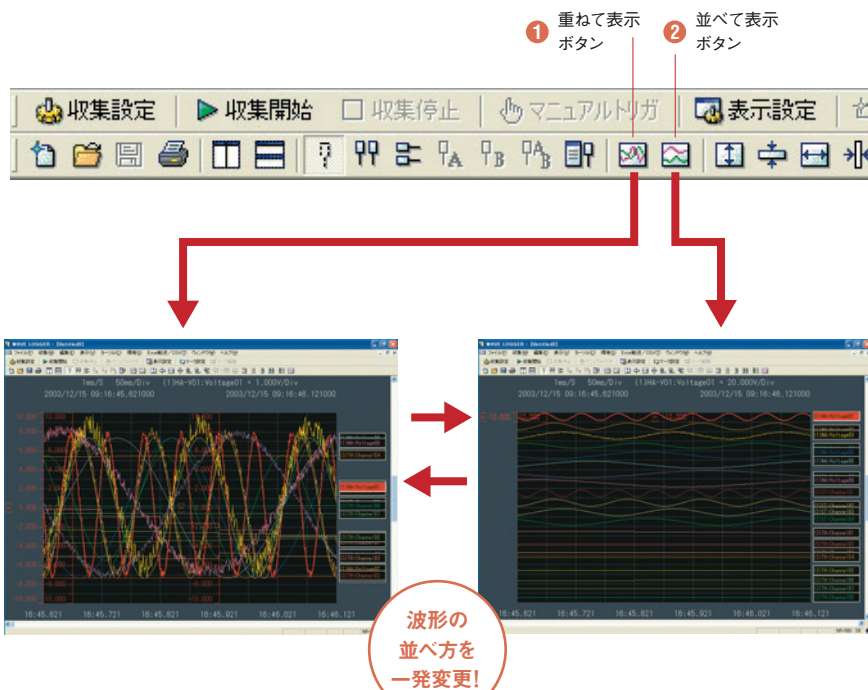
11 波形が重なって見にくいので すっきりさせたい

ワンタッチ表示 切替機能

一つのウィンドウ中にいくつかの波形を表示させるとき、波形を並べた表示か、全てを重ねて書くかを簡単に切り換えられます。

HOW TO/STEP

- 1 全波形を同一ライン上に重ねる時は、【重ねて表示】ボタンを選択します。
- 2 波形を縦に並べたい時は、【並べて表示】ボタンを選択します。



ワンポイント

重ねて表示機能を使うと、表示チャンネルの時間別変化が一目で分かります。



12

計測中に過去のデータと比較観測したい

マルチ

ドキュメント機能

計測中に、過去の計測データを開けます。基準波形との照合などに便利です。いくつでも自由に保存データを開けます。

HOW TO/STEP

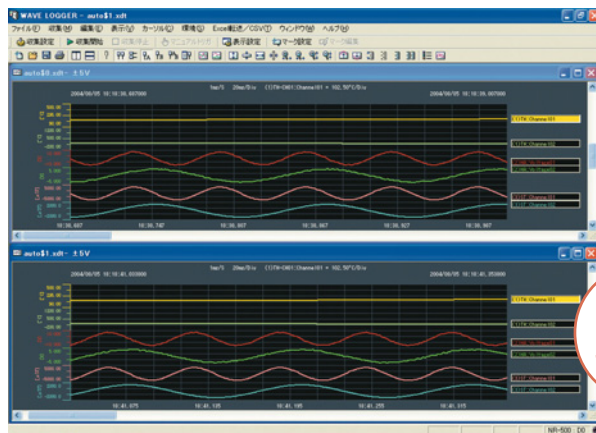
- 1 【ファイル】 - 【波形データ読み出し】 を選択し、波形データファイルを開きます。
- 2 【左右に並べて表示】 または 【上下に並べて表示】 を選択します。
- 3 該当する箇所を比較観察します。



1 過去の基準波形を読み出します



<上下に並べて表示>



2 左右に並べて表示 2 上下に並べて表示

過去の
比較が
できました!



比較する場所の値を正確に読み取るにはカーソル機能(16ページ)が便利です。カーソルを当てた箇所の情報がデジタル数値で読み取れます。



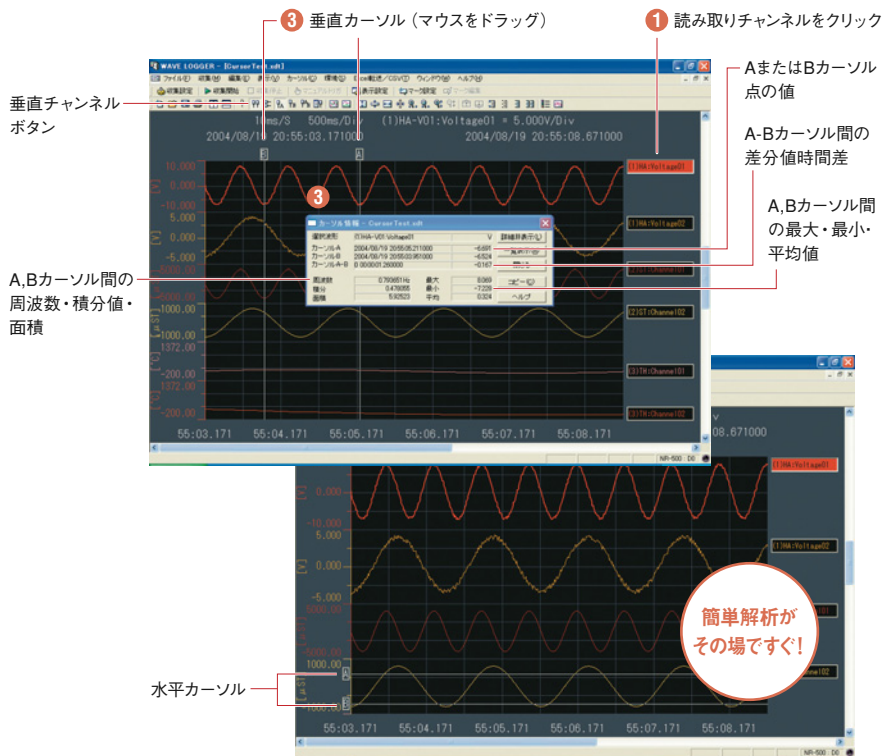
13 2点間の大きさ（距離）や面積などを簡単に見分けたい

カーソル機能

表示データ中、気になる部分の数値、2点間の差分値、時間差や面積などをすぐに観察したい場合があります。カーソル機能で簡単にそれらの情報が得られます。

HOW TO/STEP

- 1 読み取りたいチャンネルをクリックしてアクティブ状態にします。
- 2 【カーソル】 - 【垂直（または水平）カーソル表示】を選択。
- 3 値を読み取りたい箇所をマウスでクリックします。



ワンポイント

カーソル情報ウィンドウ中にある【コピー】ボタンを押すと、値がクリップボードに格納されます。そのまま、表計算ソフトなどのソフト上で、【編集】 - 【貼り付け】操作により値が転送できます。



14

一定区間内の最大・最小値のみを表示したい

ホールド機能

傾向値をつかむ場合や異常値のみを観測したい場合は、生波形ではなく、一定区間内の最大・最小値のみを表示すると便利です。

HOW TO/STEP

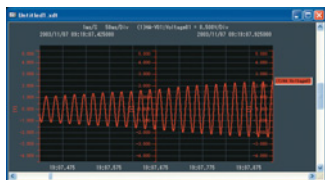
- 1 【収集設定】 ボタンを押します。
- 2 該当チャンネルの「ホールド機能」で「最大→ピーク」「最小→ボトム」で設定します。
- 3 最大・最小を求める時間間隔を「サンプリング周期」に設定します。

設定チャンネルを選択

最大値なら「ピーク」
最小値なら「ボトム」

実サンプリングは設定できる最速サンプリング周期で行ない、設定したサンプリング周期間のピーク(ボトム)値のみを表示します。

ホールド機能非設定時



ホールド機能設定時



ホールド
表示可能!



データ保存時は見たままの最大・最小値のみが保存されます。また、表示上は細かく、CSV形式保存時に最大・最小・平均値のみを保存することもできます(31ページ)。



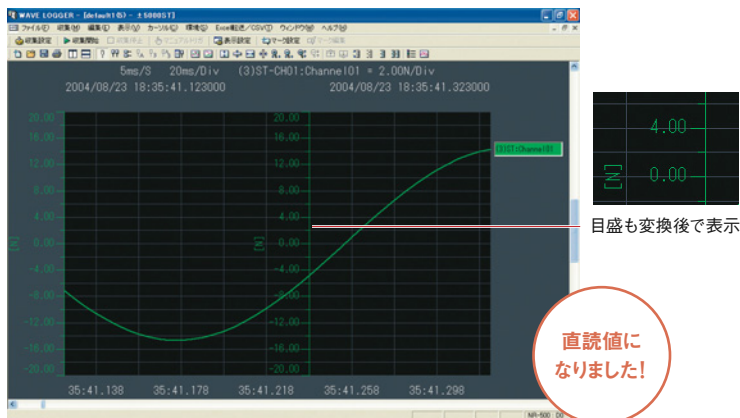
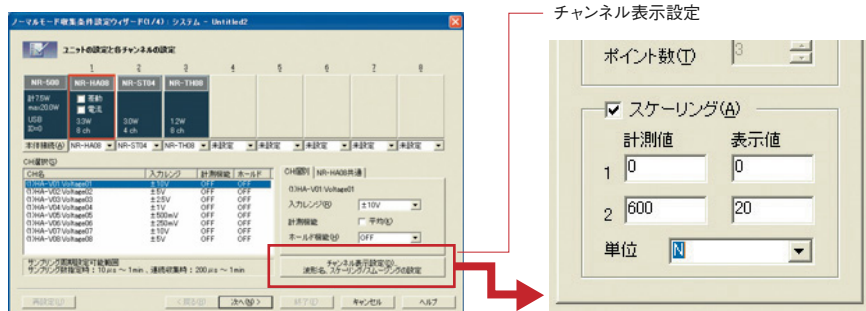
15 計測値を物理値に変換して 単位もつけて表示したい

スケーリング機能

0-5Vや4-20mAなどの計装用信号で出力を、「atm」や「kgf」などの物理値へ変換したいときに便利です。

HOW TO/STEP

- 1 【収集設定】 ボタンを押します。
- 2 【チャンネル表示設定】 ボタンを押します。
- 3 該当チャンネルの「スケーリング」を設定します。



ワンポイント



CSVデータ保存時はスケーリング後の値で保存されます。
波形表示と同時に表計算ソフトに転送する場合(33ページ)は
スケーリング前の値が転送されます。